

事業名	県が設置する審議会等への女性登用促進		
担当課	男女共同参画課		

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	1
当初予算額(千円)	-			決算額(千円)	-		
事業の概要・目的	政策決定過程において男女が共同して参画する機会が確保されていることは、男女共同参画社会の基盤を成すものであることを踏まえ、本県における審議会等女性登用率の目標40%の達成に向けて、委員選任の事前協議手続を周知徹底する等により庁内の取組を促進する。						
数値目標など							
指標名等	県の審議会等における女性委員割合						
目標	40.0%	実績	27.4% (H24.4.1)				

2 事業の実施結果

審議会等委員の改選時における事前協議をもれなく実施するとともに、女性人材リストの提供や関係団体における女性人材の発掘を促すこと等により、登用率の向上に努めた。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	事前協議や女性人材リストの提供により女性登用の促進に努めた。

(2)改善点等

＜改善した点＞ 女性人材の少ない土木、建設等の分野における女性人材リストの充実を図るため、市が保有している人材情報の共有化について、人材リストを保有する市との意見交換を行い、実施に向けた調整を図った。 また、委員改選時に行っている事前協議においては、関係機関等から女性人材を推薦してもらうことが重要であるため、関係課を通じて関係機関に対し文書で女性適任者の推薦を依頼するよう求めたり、女性人材のいる団体を発掘する等により女性登用の促進に努めた。
--

4 委員意見

審議会等における女性の割合は目標40%に対して30%未満となっている。掲げた目標を達成するために、各団体との連携を強化するなど、審議会における女性の登用促進を目指し、積極的に取り組んでいきたい。そのためには、人数だけではなく質も重要だが、単年度ごとの目標を設定することも検討して欲しい。 県がモデルを示すことで市町村や民間もリードできると考える。
--

事業名	県の女性人材リストの充実		
担当課	男女共同参画課		

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	2
当初予算額(千円)	2,361			決算額(千円)	2,206		
事業の概要・目的	県の審議会等委員への女性登用指標を達成するうえで、必要な事項を定め、もって政策・方針決定過程への女性の参画の促進を図る。						
数値目標など							
指標名等	千葉県女性人材リスト掲載者数						
目標	600名	実績	315名				

2 事業の実施結果

県内外の各分野で活躍している女性に関する情報を収集し、県及び市町村における審議会等委員への女性登用の促進と、男女共同参画関連施策の推進に努めた。
--

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	

(2)改善点等

＜課題・今後改善すべき点＞ 専門分類コードにより分類されているが、登録者の実態に合わないこと、コード管理では検索がうまくいかないことから、検索しやすい分類に見直す必要がある。
--

4 委員意見

課題を明確にし、改善への取組を行っている点は評価できる。 市町村でも同様のリストを作っているところがあるということなので、各市町村が人材リストを作成し、県との情報共有を図ることが望まれる。市町村と連携を図り、県内各地域から人材を発掘することを期待する。 なお、専門家だけではなく、県民の立場からの意見も大切であることから、次世代の人材育成の意味も含めて、それぞれの問題に関わる当事者や、若い世代を入れていくことも検討して欲しい。
--

事業名	女性職員の役付登用の促進
担当課	総務課、関係各課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	3
当初予算額(千円)	-			決算額(千円)	-		
事業の概要・目的	県行政の政策・方針決定過程へ多様な視点の導入や新たな発想の取入れ等の観点から、女性職員の役付職員への登用を促進する。						
数値目標など							
指標名等	県職場の役付職員に占める女性の割合 (知事部局 係長・主査級以上)						
目標	—	実績	23.3%				

2 事業の実施結果

平成25年4月の定期人事異動において、県職場の役付職員（係長・主査級以上）に占める女性の割合は23.3%となった（前年度比+0.8ポイント）。 また、女性幹部職員の職域拡大を進め、組織の中核となるポストにも積極的に登用した。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	役付職員については、適材適所を基本に男女の区別なく登用している。

(2)改善点等

<改善した点> これまでと同様に、女性職員について、幅広い職域において多様な職務経験を積むことによる能力開発や、研修を通じた養成を行い、積極的な登用を図っている。
<課題・今後改善すべき点> 引き続き、職員意向調査等により、職員の個人的な事情を把握したうえで、任用や人事配置を図り、女性職員がやりがいを持って働くことのできる職場環境づくりを推進する。

4 委員意見

第2次計画から少しずつ役付女性の割合がアップしており、努力を評価したい。平成27年度25%の目標の達成に向け、育児・介護などを経た女性の登用を積極的に行い、若い世代が、先輩を目標に頑張れるような職場の雰囲気づくりを行って欲しい。 今後は、女性職員が、更に課長級以上の役職に昇進していけるかが課題となる。女性職員の役付登用に向けた、職場環境や教育体系の整備等を進めることにより、少しずつでも前進することを期待する。

事業名	女性教職員の役付登用の促進		
担当課	(教) 教職員課		

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	3
当初予算額(千円)	-			決算額(千円)	-		
事業の概要・目的	県の施策を積極的に展開するため、職員の意欲、能力等を十分考慮し、適材適所を基本に、男女の区別なく登用を図る。 また、研修による意識改革や人材開発に努めるとともに、積極的に女性を登用していく。						
数値目標など							
指標名等	-						
目標	-	実績	-				

2 事業の実施結果

管理職である校長・副校長・教頭の女性登用数は年々増えている。平成22年度332名，平成23年度342名，平成24年度351名と毎年9～10名ずつ増加している。平成24年度の割合は12.1%で前年比0.3%増となった。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
実施結果・効果	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	

(2) 改善点等

＜課題・今後改善すべき点＞
参考：全国の教員を対象とした「学校指導基本調査」（2011）ベネッセの調査によれば、「できれば将来管理職になりたい」と考えている女性教員は小学校で3.2%，中学校で3.8%である。低い管理職志向の理由に「管理職にはならず，一教員としてずっと児童・生徒を前にして働きたい」としているのが小学校，中学校ともに約6割を占める。
本県では意欲のある女性教員に優れたリーダーシップを発揮してもらうため，積極的に管理職へ登用し，配置するとともに適任者の把握・育成にも努めている。今後は少ない管理職希望を拡大するため，管理職への登用につながるミドルリーダーとしての主任層への女性の登用を進め，管理職登用増加につながる取組を行っていく。また，人事異動方針に明記している積極的な女性職員の管理職への登用を周知していく。

4 委員意見

管理職を目指す女性教職員を増やすためには，出産・育児・介護等における女性の負担を考慮に入れた対策も合わせて実施することも必要なのではないかという印象を持つ。選考試験に挑戦するとなると仕事と家庭の両立が困難な現状などを踏まえ，女性教職員が管理職になりたいと思うような環境づくりが重要である。
特に，中学・高校における女性管理職の割合が少ないので，この問題をどう解決するか検討が必要である。数値だけが問題ではないが，慣習や登用の在り方の見直しも必要だと思われる。

事業名	男女共同参画に積極的に取り組んでいる事業所の表彰
担当課	男女共同参画課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	30			決算額(千円)	0		
事業の概要・目的	仕事と家庭の両立支援や女性の登用・職域拡大等に積極的に取り組んでいる県内の事業所を公募により募集し、表彰を行う。 また、受賞事業所については千葉県男女共同参画推進連携会議において取組の発表等を行い、県のホームページに掲載するなど広く周知を図る。						
数値目標など							
指標名等	—						
目標	—	実績	—				

2 事業の実施結果

6月から7月末まで募集を行い、1事業所からの応募があったが、受賞にいたらなかった。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
実施結果・効果	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか	×	表彰された事業所がなかったため。
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	×	上に同じ。
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	×	上に同じ。

(2) 改善点等

＜改善した点＞

経営支援課主催の包括協定企業との懇談会で事業所表彰の紹介をした際、企業から良い反応が得られた。今後も、商工労働部と連携を図り、企業の集まる会議、研修等での事業所表彰について紹介していく。

＜課題・今後改善すべき点＞

優れた取組をしている事業所からの応募が少ないことから、事業の積極的な周知方法について検討する必要がある。

今後は、経済団体、関係団体等へのチラシ配布に加え、直接、事業所に対して、電話・訪問等により事業の案内をするなど、積極的な周知を図っていく。

4 委員意見

せっかくの事業だが、表彰対象となるような事業所から応募が無かったことは残念である。応募を増やすためには、事業者団体との連携強化が重要。事業者に受賞することのメリットを感じられるようにするとともに、そうしたメリットを積極的に宣伝したり、チラシ配布以外に会社に直接働きかける方策を模索したりするなどの工夫をしていって欲しい。

「待つ」から「声かけ」の積極的姿勢に変更し、年間通して、他の課との情報交換を行ったり、事業所に呼び掛けを行ったりすることを期待する。なお、提出書類の簡素化も検討して欲しい。

事業名	ポジティブ・アクション推進セミナーの開催
担当課	雇用労働課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	施策コード69の予算に含む			決算額(千円)	施策コード69の予算に含む		
事業の概要・目的	職場における実質的な男女の均等な待遇改善のため、一般県民、企業の人事労務担当者等を対象にセミナーを開催し、啓発に努める。						
数値目標など							
指標名等	－						
目標	－	実績	－				

2 事業の実施結果

労働大学講座：労働大学講座の1講座として、一般県民向けポジティブアクションセミナーを開催した。
（1回開催 参加者数86名 テーマ・女性の活躍の場の拡大とワーク・ライフ・バランス）
企業における女性の活躍推進セミナー：専門家(大学教授)の講演による事業者向けセミナーを開催した。
（1回開催 参加者数60名 テーマ 女性の活躍による企業の活性化～女性が導く経済成長～）

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか	○	県民、事業者に広報を行った。労働大学校は1講座のみの受講も可とした。
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	参加者の男女別の集計を行った。
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
実施結果・効果	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか	○	専門家（大学教授）の講義により、女性の活躍の場の拡大の啓発となった。
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか	○	専門家（大学教授）の講義により、ワーク・ライフ・バランス等の啓発となった。
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	専門家（大学教授）の講義により、男女参画の促進の啓発となった。

(2) 改善点等

＜課題・今後改善すべき点＞

効果的な啓発を行うため、県内の経済団体、職能団体、労働団体等と連携をしながら、具体的な取組事例等の情報共有を図っていくことが必要である。

4 委員意見

より多くの県民が参加できるよう、引き続き努力をして欲しい。そのためにも、その時々の方勢に即した役に立つ内容にすることや、セミナーについて県民に広く周知できるような取組みをより積極的に行うことを期待する。また、ワーク・ライフ・バランスの言葉の理解度をあげることやセミナーに参加しやすい環境づくりにも努力して欲しい。

なお、セミナーを実施するにあたっては、女性講師の登用など、講師の選定に工夫することを検討してもらいたい。

事業名	農山漁村女性団体ネットワークの活動支援
担当課	担い手支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	200			決算額(千円)	105		
事業の概要・目的	農業・畜産・林業・水産業の様々な分野の女性団体によるネットワーク組織が、各分野や団体間の相互理解を深め、活動の充実を図るための研修会を開催する。						
数値目標など							
指標名等	家族経営協定締結数 農林水産業における女性による起業経営体数 女性の農業士等認証数						
目標	1,551戸 471経営体 107人	実績	1,516戸 469経営体 91人				

2 事業の実施結果

農山漁村女性団体ネットワークのリーダー会議を開催し、県との共催による交流会の内容を協議した。交流会には会員43名・関係機関12名が参加し、6団体の活動紹介と、女性の社会参画をテーマにテーブルトークを行い、会員同士の交流を図った。
また、農業委員改選のある16市町に対し、女性農業委員の登用要望書を提出した。

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか	×	ネットワークの活動支援は、社会参画できる女性の育成を図っているため、構成員の女性のみを対象としています。
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか	○	
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	

(2)改善点等

＜改善した点＞

千葉県では農林水産業従事者の4割を女性が占めているが、農業委員や農協役員等への女性の登用割合が数%と少なく、女性の社会参画は全国的にみて低いレベルとなっている。そこで、女性の社会参画支援を活動方針としているネットワークの各会員が、地域でどのような支援を行えばよいか考えるきっかけとなるよう、女性の社会参画を進める上でポイントとなる「自分の時間の確保」「家族でのルールづくり」「若手女性を育てる地域活動」等をテーマにテーブルトークを行った。

＜課題・今後改善すべき点＞

23年度までネットワークと県の共催によるフォーラムを開催してきたが、構成6団体の会員間の交流がほとんど図られてこなかった。今後は、交流会のアンケートの結果を踏まえ、リーダー会議においてネットワークの具体的な活動内容を検討するとともに、男性の考え方が女性の社会参画を進める上で障害となる場合もあることから、男性への働きかけについても検討していく。

4 委員意見

目標値をクリアすべく努力していることは評価できる。

登用要望書を出すだけでなく、さらに担当者と話し合い等をするといった、粘り強い関係機関への働きかけが実績につながっていると感じる。今後も引き続き意見交換の場を設けるなど、個人のスキルアップや意識変化の促進に努力して欲しい。

若手農業者との交流会や研修会、意見交換会の実施など、フォーラム等に参加した人達のアンケートの結果に応え、参加者の意欲を持続させる努力をしてもらいたい。

事業名	地域ごとに設置した推進組織の活動支援
担当課	担い手支援課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	610			決算額(千円)	649		
事業の概要・目的	各地域の推進母体である地区推進会議は、県・市町村・関係団体により構成され、各農業事務所が事務局として運営している。 農業事務所は、情報の共有化や意識啓発を図るため、会議やセミナー等を開催する。						
数値目標など							
指標名等	家族経営協定締結数 農林水産業における女性による起業経営体数 女性の農業士等認証数						
目標	1,551戸 471経営体 107人	実績	1,516戸 469経営体 91人				

2 事業の実施結果

県内10農業事務所において地区推進会議を合計16回、セミナーを13回開催した。セミナーでは、農業委員や団体役員等、地域で活躍している女性が事例発表や講演を行い、延べ458名が参加した。
--

3 評価

(1) 男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか	○	
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	○	
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか	○	
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	

(2) 改善点等

＜改善した点＞ 市町村等関係機関担当者が男女共同参画対策を身近に感じてもらい、農業者と連携した取組が行えるよう、セミナーの内容を検討し、地域で活躍している農業者の事例発表や、他地域の先進事例の視察研修を実施した。
＜課題・今後改善すべき点＞ 異動等で新たに男女共同参画担当者となった職員が、効率的・効果的に関係機関や農業者等に働きかけができるよう、講演者や先進事例等を取りまとめ、県内担当者の情報の共有化を図る。

4 委員意見

計29回のセミナー等を開催したことは意味のあることだと思う。長期的に地道に取り組む事業だが、モデルとなるような他県の取組を情報として提供するなど、活動がより一層充実するよう望むものである。 また、各農業事務所ですとまとめた参加者からの意見等は、ぜひ各事務所や参加者で共有するようにして欲しい。

事業名	農山漁村いきいきアドバイザーの活動支援		
担当課	担い手支援課		

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	133			決算額(千円)	11		
事業の概要・目的	平成19年度から認証を開始した「農山漁村いきいきアドバイザー」の活動を推進する。						
数値目標など							
指標名等	家族経営協定締結数 農林水産業における女性による起業経営体数 女性の農業士等認証数						
目標	1,551戸 471経営体 107人	実績	1,516戸 469経営体 91人				

2 事業の実施結果

地区推進会議推進委員への登用により、関係機関との連携活動を支援した。また、アドバイザーを運営主体とした研修会の開催支援と、アドバイザーと関係機関を対象とした地域活性化先進事例研修会をそれぞれ県内1地区で実施した。

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
	3	性に起因する問題に配慮したか(防災・健康分野に係るもの)		
実施結果・効果	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態(情報提供、時間帯、その他の配慮(育児・介護の便宜)等)となっているか	×	女性の登用割合が特に低い農業分野において、役職登用を促進するため、アドバイザー認定者の92%が女性となっている。
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか	○	
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか	○	
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか		
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	

(2)改善点等

＜改善した点＞
各農業事務所におけるアドバイザーの活用促進と、農業事務所との連携活動内容を把握するため、25年度事業の要領を改正し、事業ヒアリング等で計画に盛り込むよう働きかけた結果、地区推進会議のほか、7地区においてアドバイザーを含む女性農業者等を対象とした研修会や検討会、交流会を開催する計画書が提出された。

＜課題・今後改善すべき点＞
アドバイザーの資質向上とアドバイザー間の情報交換を図るため、県域の研修会を開催する。

4 委員意見

地域ごとに多くのアドバイザーが誕生していることは評価できる。今後も若い人達にトライして欲しいと期待する。しかし、せっかく認証されても活動の場がなければ次世代も育たず、力を発揮することもできず、「名ばかりアドバイザー」になりかねない。

今後はアドバイザーの具体的な活躍の場を拡大するため、活動場所の提供や発掘等を行うとともに、県から市町村に活動の場を広げていくことも期待する。

事業名	女性農業委員等の登用促進
担当課	農地課・団体指導課

1 事業の概要

基本目標	Ⅱ	基本的な課題	6	施策の方向	①	施策番号	4
当初予算額(千円)	-			決算額(千円)	-		
事業の概要・目的	農業において、生産者や消費者等の立場のわかる女性の力が期待されているが、政策・方針決定過程への女性の参画は依然として低水準である。農業委員会や農業協同組合における女性委員や女性役員の登用拡大を目指し、関係団体等に女性登用を要請する。						
数値目標など							
指標名等	女性農業委員数・農業協同組合の女性役員数						
目標	増加を目指します	実績	女性農業委員49名 農協女性役員25名				

2 事業の実施結果

平成24年度において、15市町村長、15市町村議会議長に対し登用の要請を行った。 ①女性農業委員数は目標80名に対し実績49名（61.25%）であり、前年度より9名増加した。 ②農協の女性役員数は目標42名に対し実績25名（59.5%）であり、前年度比で9名増加した。
--

3 評価

(1)男女共同参画の視点からのチェック(該当する項目のみ記載)

企画・立案過程	★視点1 企画への参画			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	1	事業内容や事業の設計が、固定的な性別役割分担を前提としたものになっていないか		
	2	企画、立案過程で女性、男性双方が参画したか		
実施結果・効果	3	性に起因する問題に配慮したか（防災・健康分野に係るもの）		
	★視点2 受益の公平性			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	4	女性、男性双方にとって利用しやすい形態（情報提供、時間帯、その他の配慮（育児・介護の便宜）等）となっているか		
	5	事業を利用・参加した人々の性別データが存在するか		
	6	男女のいずれか一方に偏った受益となっていないか		
	★視点3 男女共同参画社会形成への貢献			
	No.	チェック項目	チェック	説明
	7	固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発となったか	○	市町村長等に女性農業委員登用の要請を行った。
	8	ワーク・ライフ・バランスの啓発、促進に貢献したか		
	9	事業分野における女性、男性の参画の促進に貢献したか	○	女性農業委員及び農協の女性役員数が増加した。

(2)改善点等

＜課題・今後改善すべき点＞ ①農業委員の女性登用の必要性の理解を深めるため、市町村長、市町村議会議長等に登用要請を引き続き丁寧、粘り強く行っていく。 ②女性農業委員や農業協同組合の女性役員の候補者の増加等、人材確保を図るため、農業委員会や農業協同組合に対し、千葉県農業会議等とも連携して普及啓発を要請していく。

4 委員意見

本事業を進めるにあたり困難はあると思うが、目標達成に向けて努力していることが認められる。 農協における女性役員数については、現在の目標は最低限の目標として、更に上を目指して欲しい。 なお、目標達成のためには、女性の育成強化が必要である。例えば、女性候補者名簿の作成、仲間づくりのための支援、研修会の開催、会議等に参加しやすい環境の整備といった、女性登用を進めるための取組みを期待する。教育システムの構築も検討してもらいたい。日常的に組織での話し合いを行うことも重要であり、女性会の活動の活性化を図ることも方法の一つである。 今、日本の農業は改革が必要な時を迎えている。女性ならではの発想を活かせるような環境づくりをリードしてもらいたい。
